

その間にそのシューツとした曲を集めたアルバム『癒してゴメンね』があるんです。クオリティは当然高いのですが、まだ老け込んでいないピッチャーが変化球ばかりでかわそうとしている感じがして「直球あつての変化球だろ！バシッとこんかい！バシッと」とばかりに直球のサインを出し続けて来ました。

ピチマガ1作目の第1曲目 Check fuse の NBA version と今回の5曲目の(Power)Live version と聴き比べてみてください。(バックナンバーも無料でお届けしますのでメールでご連絡ください)歌詞は高くそびえたタワーに登りっぱなしだし、いつの間にかチェケラフェーズになってしまってるし、激しい振付の最中にボリュームを絞ったはずのギターに手が当たってしまい「はずした」フレーズが鳴ってしまったりしていますが、そんな事をぶっ飛ばすだけのサウンドがここにあります。



そんな眠っていたPizzi Putyを復活させてくれたのは昔から友人でした。

前号の「びちぶていを応援してくれるお店」で紹介した Soul Mate Club の甲斐君(店長様共々応援してくださってPizzi PutyのプロモーションDVDを大画面に流してくださっています)、ライブに声をかけてくれた江島君、PA担当でギター

サウンドから創ってくれた杉君など以前のバンド Public Jam Jam 時代から友人との再会はパワフルだった頃を思い出させてくれたようです。時間を守らない悪い癖も復活してしまいましたが...

そして周りから「Bobby さん」と呼ばれまくり、しかもライブ当日「Bobbyさんお久しぶりで。ってピチプティって誰か知ってます？」等と多くの人から聞かれるうちに彼自身が Pizzi Puty なのか Bobby なのか分からなくなってしまい「Public Jam Jam をやっていた Bobby がやっているソロプロジェクトが Pizzi Puty なんです」という事に決めました。



更にややこしい事に前述の江島君や杉君にコーラス、ダンサーを加えた新バンド"Public Jam New Jam"を結成する事になってしまっています。もうこうなると誰も止められません。

ちなみにすぐ新しいバンドを作りたがるのも彼の癖です。1991年頃は"猿が匂"というバンドを始め5~7つのバンドをやっていたはずです。その中の3つは僕が入っていたんで間違いありません。

これで晴れて『癒してゴメンね』もリリースできるでしょう。剛速球とへろへろ変化球を持った Pizzi Putyは無敵です。あとは自分で作ったはず

の歌詞いかに覚えるかという問題だけですわ。

歌詞を覚える方法をご存じの方は彼のメールアドレス pizziputy@whats-new.ne.jpへお願いします。

みのもんたさんに相談しても怒られるだけだろうしなあ...

プロフィール

大河ドラマ

文：びちぶてい夫

第四幕

生まれた

2004 ファンクマスターへの道

ファンキー この言葉がこの国で多く使われるようになったのはいつごろだろう ファンキーって何色？ ファンキーってどんな味？ ファンキーって固い？ 柔らかい？ 綺麗？ 汚い？ ピチプティにそんな事を聞いたところで帰ってくる言葉はひとつ"LOVE IS ALLだよ。FUNKはLOVE。LOVEは人生のALL。人生のALLがFUNKである"それを自分の中に確信した時もうあなたもファンクマスターであピチプティは35才の春にして その大道を歩みだしたのだ！

歩みだすにあたって彼はひとつの大きな決意をした。それは自分が音楽をやり続ける姿を通して誰かがハッピーになったり生きゆく力を増して頂けるのなら"死ぬが死ぬまで"やり続けるぞ! これぞファンクマスターだ!!

第一幕	誕生・運命の子	(0~3歳)	11月号
第二幕	金の印・試練	(7~17歳)	1月号
第三幕	青春・持続	(20~34歳)	3月号
第四幕	ファンクマスターへの道	(35歳の春)	5月号
第五幕	栄光への階段(予定)	(36~50歳)	7月号
第六幕	ポロポロになるまで(仮)	(70~100歳)	9月号

コラム

『黒崎ファンタジー』

先日、久々に彼のライブを見た。バンド時代から彼のライブには驚かされる事が三つある。一つは言うまでもなく曲そのものであり、二つ目は「一体どこから手に入れたのか!？」という衣装。そして三つ目は、次の日にはいつも忘れてしまうのだがインパクトのある笑いを含んだMC。今回のライブではかなりのオカマっぷりで、観客の開いた口をふさがなかったであろう事は知る人ぞ知る所である。なぜこうもスパンコールやラメが似合うのか？(そのかわり普通のボーダーTなんかはあきれる程似合わないし、アロハシャツを着た日には明らかに現地のガイドになってしまう...) 妖しげな真っ赤な照明に照らされた彼の独特の世界へ

入ると、自分までがいつもと違うような気がしてくる。だが次のライブに彼のような突飛な格好で見に来るお客さんはいない。やはりあのキラキラは彼にしか似合わないのだ。でもあの世界は一度味わうと忘れられない。久しぶりに青春の風がふいた...オカマ色の...。やっぱりライブは最高だ。気になる人はぜひ一度足を運んでほしい。そしてライブ会場で彼とともに拳を突き上げた時、あなたも立派な Pizzi Puty の一員であり、オカマ色の風の心地よさを感じるであろう事をここに約束したい。

クリスタル花子(フリーライター)

プロフィール：1970年代生まれ、12才でパンクに出会い心の扉を開く、現在は自分のオタクさを世界平和に貢献させる道を模索中。

Pizzi Puty Magazine CD

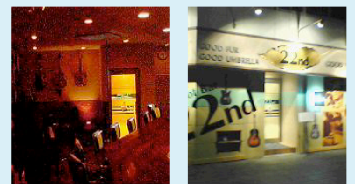
平成17年 5月31日発行(通巻4号)
5月号 発行部数 175部

編集長○鐵尾 一郎
編集○デジタルスタジオ・ワッツニュー
進行・校閲・写真○鐵尾 一郎
制作協力○ファーテーズM

発行○デジタルスタジオ・ワッツニュー
住所○福岡県北九州市八幡西区黒崎5丁目5-48
パークハイツ黒崎II 103 〒806-0021
電話○093-622-4158
080-5502-1665
家頁○ <http://www.whats-new.ne.jp/>
電子郵便○ info@whats-new.ne.jp
発行人○鐵尾 一郎



びちぶていを応援してくれるお店です



SHOT BAR 22nd

住所 北九州市八幡西区熊手1-1-30
電話 093-621-4514
定休日 火曜日
駐車場 無し(近くに¥100Pあり)
アクセス JR黒崎駅 徒歩3分
ひとこと ドリンクは¥500~
ライブスペースもあります